

日本医療催眠学会 第五回 学術大会

催眠による回復の力 ～レジリエンス～



日時 2017年10月15日(日)

AM10:00～PM18:00

会場 國學院大學 渋谷キャンパス
130周年記念五号館 2階 5202教室
(東京都渋谷区東4-10-28)

主催 日本医療催眠学会

大会長 西田 美樹子

Therapy Space Luz 代表

Japan Medical Hypnosis Association.

 日本医療催眠学会

第5回 大会に向けて

西田美樹子（大会長、日本医療催眠学会理事、Therapy Space Luz代表）

お蔭様を持ちまして今年で5回目の学術大会を迎えることが出来ました。

本学会は医療催眠学会と名付けておりますが、医療従事者の方々は勿論の事、他に催眠に関心のおありになられる方々にも広く門戸を開放し、催眠を共に学び、研究し、集う場として発足致しました。このような趣旨が会員の皆さまをはじめ、多くの方々のご賛同、ご支援を戴けている事と深く感謝申し上げます。

今回のテーマは催眠による回復の力～レジリエンス～です。

ご自身の潜在意識とコンタクトを取ることで起こる気づきや発見が、心の回復力の一端となり、明日へと向かい歩む原動力となりうるツールとしての催眠の奥深さが伝われば幸いと存じます。

それぞれの演題にきっと皆様的心里に響く何かがおありになるでしょう。

どうぞ楽しまれながら有意義な時間をお過ごし下さい。

第5回日本医療催眠学会学術大会に向けて

萩原優（日本医療催眠学会理事長、イーハトーヴクリニック院長）

平成25年2月25日に発足した本学会は、皆様のおかげで5年目を迎える事が出来ました。催眠に関心のある方には、門戸を開いており、催眠をきちんと理解し、役立て、広めることを目的としています。

今年は、西田美樹子理事に会長のもと、「催眠による回復力～レジリエンス～」をテーマとしております。

「レジリエンス」とは聞き慣れない言葉ですが、回復力、復元力などと云われております。

西田会長の催眠への思いが反映されているテーマだと思います。

催眠は「誰もが自分の課題は自分で解決でき、克服できる」という前提に立っており、セラピストは、クライアントさんがご自分で気づきを得るのを介添するのが役目なのです。

催眠には数多くの考え方、手技があり、進歩しています。そこで、多くの催眠に関する知識に触れる事に意味があります。今日、一日、催眠の醍醐味を大いに楽しみ、味わって下さい。

変容の力ー人生の成功のための潜在的な能力

The Power of Transformation - Innate Abilities to Lead A Successful Life

イングリッド・バリエール INGRID VALLIERES（前世・退行療法家）

【概要】

人生とは創造の連続で、人は自分自身の想念、信念体系や行動によって常に自分の現実を創り上げています。人間は創造主です。問題や病気を創り出すこともできるがネガティブな問題を解決する力も内在しています。

イングリッド バリエールによるこの講義では、問題を創り上げている精神的あるいは霊的な理由、トラウマや抵抗の理由その他気づきや癒やしと回復を妨げる障害となる二次利得についてみていきます。旅の始まりにおける私たちの意識的な決断を理解することが、あらゆる問題の解決のカギなのです。この二元性の世の中に生きている私たちは進化のために試練が必要ですが、人間の特質を理解すれば不要な問題は解消し再創造することが可能なのです。その秘密は自分自身の呈する症状や外側に起きる現象は自分自身の責任として受け止め人生を創造することへの確固たる自覚を持つことなのです。これは自分自身には見えないものなのです！

【本文】 自分の創造的な力に気づく方法

- どのような思考のプロセスが望まない条件づけを解消できるか？
- 胎生期や過去世からの刷り込みへの対処方
- 退行セラピーの唯一無二の特徴
- 変容するパワーを目覚めさせ自覚するには
- 健康で安定と調和を維持するためのカギ

Life is a creative process whereby people are constantly creating reality by their thoughts, belief systems and their actions. Humans are creators - we have the ability to create a problem or an illness, but we also have the power to resolve negative issues.

This lecture (by Ingrid Vallieres) will cover mental and spiritual reasons for the process of creating problems, the reasons for trauma and resistance, the secondary gains behind the blocks against insight, healing and recovery. The key to any solution lies in understanding our conscious decisions at the beginning of the journey.

With the insight of human nature living a life in polarity and thus needing challenges to evolve, it is possible to engage in re-creating or dissolving any unwanted issue.

The mystery is to resume responsibility for our symptoms and any outer events and accepting our deep involvement in creating our life - often hidden to ourselves!

Contents:

How to become aware of our creative abilities

- Which thought processes are apt to dissolve unwanted conditions?
- How to deal with programming from prenatal and past life
- the unique opportunity of regression therapy - How to awaken and embrace our power to transform
- The keys of becoming and staying healthy, stable and balanced.

「依存症者の人生が変わる「レジリエンス」～支援の現場から～

矢澤祐史（ギブネスインターナショナル会長）

【概要】

依存症からの回復に適切なプログラムが必要なのは言うまでもない。現在、日本国内の医療現場や回復支援施設で提供されているものは、依存対象の使用欲求に対処するものが主であるが、それだけで回復が実現するのか疑問である。回復とは依存症者の中に宿る力が湧き出て、自身の可能性を拓げて生きていくことではないだろうか。回復支援施設のプログラムにおけるエリクソン催眠の活用により利用者にどのような変化があったのか報告したい。

【本文】

様々な依存症の回復支援団体ワンネスグループでは、依存脱却プログラムの一環としてエリクソンアプローチを取り入れ、継続して提供を行っている。

グループ各施設の利用者にアンケートを取ると、依存傾向が始まる前の幼少期から青年期の間に、虐待やいじめ、また挫折や失敗といった経験を持つものが大半を占めることがわかった。そのような背景を持つ依存症者が、単に依存対象の使用欲求に対処するスキルを身につけたとしても、心の傷は何ら変わることなく、その傷に影響された生き方を続ける中で再び依存対象の使用が始まるということが少なくない。

心の傷から自身を回復させる、人生そのものをレジリエントにできるならば、依存脱却のみならず、過去の辛い経験に左右されない自由で可能性あふれる生き方が実現すると考えられる。

音楽（周波数音楽）による催眠とその回復力

松垣孝二（講演者）・小田エリス（演奏者）（合同会社あーとくりえーと）

【概要】

本来人間の持った固有周期の振動に対して、音（音楽）としての周波数（チャクラ対応周波数）を浴びることにより、不具合のポイントをスムーズに見えていっています。クライアントの回復力も大きく、聴覚障害者に対してもその効果は確認されています。

【本文】

この宇宙に存在する全てのものは周波数により作り上げられていると理論づけられています。（量子理論）

「人体」や「心・魂」さえも周波数で成り立ち、生活環境により「体・心・魂」への不調和により熟成される年代別のチャクラに影響を与えています。この状況において、クライアントに負荷をかけずに、周波数音楽とヒプノを駆使し効率よく的確に判断できればより回復力が高まると仮説し、実施いたしています。

近未来療法で見た場所に実際に行った貴重な体験

白石俊隆（更生会村上記念病院脳神経外科 / 愛せる母・スピリチュアルクリニック）

【概要】

催眠療法におきましては、前世療法で過去を見ることはしばしば行われますが、近未来療法で未来の場面を見て、しかも実際にその場所に行き体験するという事はそれほど多くはないと思います。私は、自分のセッション中にクライアントとして近未来を見て、実際にも正確にその場に行くことができたという貴重な体験をしましたのでご報告いたします。

【本文】

私は、普段の診療では、エネルギー治療を中心に診療をしています。昨年、エネルギー治療を実施するうちに、患者さんの潜在意識や前世にアプローチしなければ問題が解決しないかもしれないと思うことが多くなるに従い、催眠療法に強く興味を抱くようになりました。そこで、昨年10月、11月と萩原優先生に、催眠療法を教えていただく機会を得ました。前世療法の中で見た場面・場所も、実際に行くことはなかなか困難ですが、近未来療法でもそれが日常生活のありふれた場所や場面でない場合には行くことはやはり困難であると思います。昨年11月に萩原先生のイーハトーヴクリニックで実施された、退行催眠基礎セミナーでワークしている時、私は近未来を見ました。その際に見たその場所に、その1ヶ月後、私は出張である北欧の国を訪問することになりましたが、そこでまさにイーハトーヴクリニックのワークで見たその街並みその場所に行くことになりました。この貴重な経験をご紹介しますと思います。

乳がん患者に対する催眠療法／無意識の再認識と価値観変容

藤原万梨子（日本親子コミュニケーション研究所）

【概要】

がん治療において標準治療と代替療法のどちらが良いのか、自分には何が合っているのか、何を選べばよいのか、様々な療法や情報、家族との考え方の食い違い等で心が揺れ動くクライアント。催眠療法を受けたことをきっかけに無意識の重要性と病気発症から治癒のプロセスへの気づき、これから生きていく意味を得て、患者の価値観の変容、現在までの1症例を報告する。

【本文】

医師から「右乳がん4期、全摘出、腰に転移あり」の診断を受け、手術前抗がん剤を勧められるが、医師の「病気と闘う」という言葉に違和感を覚え転院を検討。イーハトーヴクリニックにて代替療法（714X）、食事（ゲルソン）療法、催眠療法を受けた50代女性の症例報告。年齢退行療法、前世療法、ソマティックヒーリングの2セッションを受け、ご自分の無意識下にあった幼少期の父との死別、不安、周囲への気遣い、自分を殺して周りに合わせてきたこと等、過去の未完了の想いを完了させる。その後も内観しつつ「人はどうやってレジリエンスを得ていくのか」という患者自身の臨床発達心理士としての研究テーマと重ね合わせて考えるようになる。ホルモン剤の副作用も少なくQOLを維持しながら仕事も続け、心身が回復し精神状態が安定したところ信頼できる主治医と出会い手術でがんを摘出する。彼女の軌跡を紹介し、病気に対する催眠療法の有効性について検討したい。

“力は正義”の世界でわが国が生きていくための心得

矢作直樹（東京大学名誉教授）

【概要】

わが国は、幕末維新により“力は正義”の世界の荒波に漕ぎ出し、先の大戦で建国以降初めて外国に敗れ占領され今に至っている。先祖から受け継いだわが国をよりよいかたちで子孫に引き継げるよう私たちが国をよくしていくためにわが国の特質と世界の実勢について考える。

【本文】

わが国は、列強により開国をせまられ、幕末維新により国のかたちを大きく変えて西洋社会の仲間入りをした。短兵急な西洋化により大和心が失われることを憂慮された明治天皇は、わが国民の美風を守るために徳育に力を入れられた。米国により引き込まれた先の大戦での敗戦後、GHQ主導で精神的武装解除がなされ、国民が国の自立への意欲を失った。サンフランシスコ講和条約により正式に終戦を迎えるはずであったが、東西冷戦の激化によるわが国の赤化を防ぐために日米安全保障条約と日米行政協定（安保改定時に日米地位協定となる）が結ばれ、引き続き米国の保護下におかれ、グローバル化を進めるよう強制されながら現在に至っている。このような状況を改善するためには、国民各人がわが国の現状と世界の情勢を知りわが国の自立に向けて1）道徳心の向上、2）メディアリテラシーの向上、3）地産地消、4）環境への配慮、を心がけていくことが肝要である。



プログラム

9:30	開場 ~ 受付	
10:00~10:15	開会の辞	(大会長 西田美樹子)
10:15~10:30	萩原優	日本医療催眠学会理事長 挨拶
10:30~12:30	イングリッド・バリエール INGRID VALLIERES	基調講演 「変容の力ー人生の成功のための潜在的な能力」 The Power of Transformation - Innate Abilities to Lead A Successful Life
12:30~14:00	… 昼食 (理事会) …	
14:00~14:15	学会総会	
14:15~15:15	矢澤祐史	「依存症者の人生が変わる「レジリエンス」 ～支援の現場から～」
15:15~15:30	…… 休憩 ……	
15:30~15:45	中野幸代	歌
15:45~16:00	松垣孝二 小田エリス (演奏者)	「音楽(周波数音楽)による催眠とその回復力」
16:00~16:15	白石俊隆	「近未来療法で見た場所に実際に行った貴重な体験」
16:15~16:30	藤原万梨子	「乳がん患者に対する催眠療法/ 無意識の再認識と価値観変容」
16:30~16:40	…… 休憩 ……	
16:40~17:50	矢作直樹	「“力は正義”の世界でわが国が生きていくための心得」
17:50	閉会の辞	(藤野 敬介)
18:30~20:30	懇親会 (事前申込)	國學院大學 渋谷キャンパス 若木タワー 18階 有栖川宮記念ホール

連絡先 : 日本医療催眠学会 事務局

所在地 : 〒225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-18-9ニューライフビル202 イーハートヴクリニック内

TEL : 045-902-7240 FAX: 045-482-7620 学会HP : <http://japan-mha.com>